

福岡貿易会会員リレーエッセイ

株式会社ドーガン

代表取締役社長 森 大介 氏

金融の地産地消～今こそ資本市場に多様性を

地方創生が叫ばれて久しいですが、地方経済の多くは本社機能を持たない「支店経済」とどまり、地元のお金や年金は預貯金や投資信託を通じて大都市や海外の企業へと吸い上げられ、地域に還元されていないという現実があります。このような東京一極集中や、富める者がますます富むグローバル金融資本主義のあり方に一石を投じ、独自のビジネスを展開しているのが、弊社株式会社ドーガンです。社名の由来は九州弁の「どがんですか?」。ドーガンは「金融の地産地消」を掲げ、地域の資金を地域で循環させることで、九州経済のインフラとなることを目指しています。

【ドーガンの主な事業】

ドーガンの主な事業は、事業再生・事業承継ファンドの運営、M&A アドバイザリー、経営コンサルティングなどです。特に最近は大手地場企業の成長をお手伝いするコンサルティングの事業が人気です。2004 年の設立以来、地域特化型の投資ファンドの預かり資産の累計は 460 億円、投資先は 160 社を超え、その支援先の多くが九州内の企業という徹底した地域特化型のスタイルを貫いています。特筆すべきは、ファンドの出資者に地元の銀行だけでなく、幅広い地場産業が名を連ねている点です。ドーガンは接着剤または潤滑油として、地域経済におけるリスクマネー（エクイティ）の橋渡し役になりたい熱い思いをもった約 45 名のスタッフが力をあわせて汗をかいています。



【ドーガンが目指していること】

ドーガンが目指しているのは、単なる資金供給にとどまりません。ドーガンは、ROE や PER といったグローバルな金融資本市場の画一的な指標だけで企業を評価するのではなく、ローカルならではの「成長の物差し」を世に示し、資本市場に多様性をもたらすことを提唱しています。金融業界にありがちな、経済合理性や短期的な利益のみを追求する姿勢とは異なり、「きれいな心と創意工夫で、世界に通用する地場産業の投資と育成に取り組む」という理念を持って活動しています。利益を株主が総取りする過度な金融資本主義ではなく、従業員や地域社会にバランスよく分配してこそ、真の地域経済の活性化とウェルビーイングにつながるという考え方を根底にもっています。

